令和５年度　千葉市教育研究会社会科部会

小学校中央区・緑区ブロック　６月例会

社会科学習指導案

千葉市教育研究会社会科研究主題

新たな社会の担い手として生きる力を育む社会科学習
～児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせる問題解決的な学習を通して～

社会科学習指導案

1　小単元　「ごみとすみよいくらし」

2　小単元について

本小単元は、大単元「健康なくらしをささえる」の二つの小単元に分けたうちの一つであり、学習指導要領の、第４学年の内容に示された（２）「人々の健康や生活環境を支える事業について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」のアの（イ）「廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること」、イの（イ）「処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現すること。」を受けて、扱うものである。そこで、千葉市における廃棄物を処理する事業の役割が、自分たちの生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、廃棄物を処理する仕組みがあっても発生してしまう様々な問題が起きている事実に触れさせた上で、自分たちができることは何か考えさせていきたい。

前小単元「くらしをささえる水」では、自分たちが飲んでいる水がどこから、どのように届けられているのか調べるために、学校にある受水槽や水道管を見学したり、ダムや浄水場、下水処理の仕組みがわかる動画を視聴したりして調べ学習を行った。学習を通して、具体物の見学や動画資料の活用によって、浄水のサイクルに関わる人々の努力や工夫、思いについて児童に実感的に捉えさせることができた。また、単元終末に現状の社会的問題を提示したことで、自分達にできることはないか思考させることができた。本小単元でも、ごみを処理する人々の取り組みや工夫などに着目しながら、調査をしたり、資料を使って調べたりする活動を行っていく。廃棄物処理のための事業が果たす役割を考えることを通して、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや、生活環境の維持や向上に役立っていることを理解した上で、ごみを減らすためにできることは何か、自身で考えていく力を身に付けさせたい。

本学級の児童は、調べ学習などで、学習問題の解決に向けて進んで取り組もうとする姿が見られる一方で、社会について疑問をもち、意欲的に調べる態度に個人差があったり、社会的事象が自分たちの生活にどのように関わってくるのか想像したりすることに難しさを感じている。また、社会科の学習が苦手と感じている子が多く、その要因として、問題に対する予想や考えの書き方がわからず、学習が進まなくなってしまうことなどが考えられる。学ぶ方法や意義について考える機会を設けたり、自分たちと関わりがある身近な問題を取り上げたりするなどの手立てが必要であると考える。

指導に当たっては、これまで学習してきたことや学級の実態を踏まえて、自らの学びが中心概念や学習問題に迫れていたかを、毎時間の学習の終わりに振り返ることができるよう、ルーブリックを活用した自己評価を行っていく。授業中にいつでも確認できるよう、学習計画と評価、振り返りができるワークシートを用意する。あらかじめ評価基準を提示しているため、児童もその時間で何をどのように学んでいく必要があるのか知った上で学習を進めることができ、何を考えなければならないのか考える手立てになるはずである。学習の途中でも、自分がどの程度基準に達しているか確認できるため、学びを自己調整する力も身に付くはずである。また、自分たちの生活と結び付けて問題を考えていくために、導入では学校の身近なところにあるごみの問題を写真などで取り上げることで、問題を自分事として意識させられるようにしたい。このような学習を通して、自身を社会の一員として自覚し、より良い社会について考えることができる社会参画意識の素地を育成していきたいと考える。

３　児童の実態＜アンケートをもとにした考察＞

本学級の児童は、７割以上が学習問題の解決に向けて進んで取り組むことができると答えているように、課題に対して真面目に取り組むことができる。しかし反面社会科の授業に苦手意識をもっている児童が多い。理由として、社会科学習を暗記教科として捉え、用語・語句の暗記に重点をおいている児童が多いことが考えられる。そこで、知識の一方的な教授に陥らないよう注意し、社会的事象を具体的に捉えられる資料等を通して、追究すべき課題を焦点化したり、社会的事象の意味について、考えを深めたりできるような単元構成を行う。また、追究課題を明確にもたせるためにルーブリックを活用することで、児童の課題に対する取り組みを確認しながら進めていけるようにしたい。

本学級の児童は、ごみに対する知識が少ないことがわかった。自分たちの捨てたごみがどうなるか認識しておらず、そのためにごみの問題に目を向けられていないように思われる。捨てられたごみの行方が理解できるように、できるだけ映像資料を活用したり、ごみが処理される流れがわかるように図にまとめたりしていきたい。他にも、ごみが増えるとどうなるのかという問いに対して、自分たちの生活に悪影響が出てくる、というような回答が多かった。中には、どうなるのかわからない児童や未回答の児童もいたことから、ごみが増えることで出てくる影響についてあまり興味をもっていない児童が多いこともわかった。そこで、自分たちの身の回りのごみがどうなっているのかがわかるように、学校のごみ箱やごみ倉庫、給食室で出た残飯などの写真を提示することで、自分たちがごみを増やしてしまっていることを認識させたい。また、ごみが増えることで問題となってくる事例についても紹介することで、「ごみが増えてしまうことはよくないこと」や「ごみは減らす必要があること」を児童に気付かせられるようにしたい。そうすることで「ごみを減らしていくためにはどうすればよいのか」という視点をもちながら、ごみ処理について調べることができ、「いかす」段階で自分たちに何ができるのかを考えることに繋げられるのではないかと考える。

4　小単元　知識の構造図

中心概念（まとめる）

ごみを処理するための様々な取り組みは､衛生的な処理や資源の有効活用ができるように進められ､地域の人々の生活環境の維持と向上に役立っている。⑧

具体的知識

段階	具体的知識	用語・語句
つかむ	ごみには様々な種類があり、千葉市では分別を行っているが、昔は分別をしていなかった歴史がある。環境問題は千葉市のみならず、世界的な問題となっている。①②	○分別　○しげん物 ○ごみ置き場
調べる	ごみは様々なきまりによって収集されている。③	○しゅう集 ○ごみステーション
調べる	清掃工場にはごみ処理の仕組みがあり、いろいろな機械や設備を使って、ごみを燃やしている。④	○工場　○ごみピット ○ごみクレーン　○中央制御室 ○コンピュータ
調べる	ごみを燃やした時に出る灰や処理熱は、適切に処理されたり、有効に利用されたりしている。⑤	○発電機　○スラグ ○処分場　○しょぶん場
調べる	資源物や不燃ごみ、有害ごみを処理するために、ごみをリサイクルセンターに運び、リサイクルをするなど資源を大切にする取り組みがされている。⑥	○リサイクルセンター ○家電リサイクル法 ○再生工場　○電化製品
調べる	ごみの量を減らすために、市では3Rの考えを大切にして、ごみの減量を進めている。⑦	○古紙　○3R　○減量 ○リデュース　○リユース ○リサイクル ○コンポスト容器
いかす	自分たちの生活を見直すことで、ごみを減らす方法を考えることができる。（本時）⑨	

つかむ → 調べる → いかす

５　小単元の目標

○　廃棄物を処理する事業や人々が衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう工夫や努力することで、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解することができる。　【知識及び技能】

○　廃棄物を処理する事業や人々の工夫や努力に対して、それぞれの立場になって自分ができることを考えたり、自分の考えを他者に表現したりしようとしている。　【思考力、判断力、表現力等】

○　廃棄物の処理に関する問題について主体的に学習問題を追究・解決し、自分たちにできることを考え、社会生活に生かそうとしている。　【学びに向かう力、人間性等】

６　小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力について写真や図、映像などの資料で調べることで、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。 ②　調べたことを図表や文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	①　処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出し、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現している。 ②　ごみを減らすため、廃棄物を処理する事業の取り組みから自分たちにできることは何か考え、身の回りの生活と結び付けながら考えを表現している。	①　廃棄物を処理する事業について、予想や学習問題を立てて、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている ②　学習を通して獲得した具体的事象に照らしながら、ごみを減らすために自分たちができることを考えようとしている。

７　小単元の指導計画（９時間扱い）

過程	時間	主な学習活動と内容	評価規準と評価方法
つかむ	1	○自分たちの身の回りや地域にごみがあることを確認する。 ・教室のごみ箱　・ごみステーション ・給食室の残飯　・学校のごみ倉庫のごみ ○千葉市のごみの歴史について知る。 ・70 年前までは分別をせずに、大きなかごで集められていたり、処理せず埋め立てられたりしていた。 ・ダストボックス（いつでも捨てられる）によるごみ収集 ・臨海部の大気汚染問題 ・千葉市が政令指定都市に指定され、５分別収集開始 ・「焼却ごみ 1/3 削減」の目標達成 ・北谷津清掃工場の稼働停止 ○千葉市だけでなく、県や国、世界でもごみの問題がある。 ・千葉県の海岸における漂着物などのプラスチックごみ問題 ・食品ロスの問題　　等	[思判表①] 発言内容、ノートの記述内容から「処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。

<table>
<tr><td rowspan="3">つかむ</td><td>2</td><td>○問題となるごみの種類を知る。
・可燃ごみ　・資源ごみ　・不燃ごみ　・有害ごみ　・粗大ごみ
○ごみがどこに運ばれ、どのように処理されるのか、予想をする。
・可燃ごみは燃やすためにごみ処理場に運ばれると思う。
・資源ごみはリサイクルされるための施設に運ばれると思う。
・不燃ごみは燃やす以外の方法で処理されると思う。
・有害ごみは危険なので特別な処理がされるかもしれない。
・粗大ごみはテレビや冷蔵庫など、使える部品があるかもしれないから、資源ごみと似たような処理のされ方かもしれない。
○単元を通しての学習問題を設定する。</td><td>[思判表①]
発言内容、ノートの記述内容から「処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">わたしたちの身の回りで出るごみはどこに運ばれ、どのように処理されているのだろうか。</td></tr>
<tr><td></td><td>○予想をもとに、調べる計画を立てる。
・家のごみはごみステーションに出されるので、ごみステーションなど身の回りのごみ処理の様子を調べてみたい。
・ごみ収集車に集められたごみがどのように処理されるのか、施設の仕組みや役割を調べてみたい。
（清掃工場、リサイクルセンター、埋め立て地など）
・千葉市でも何か取り組んでいることはないかな。
・ごみ処理についてわかったことをまとめたい。
・学習したことを基に、自分たちにできるごみを減らす方法を考え、発表しよう。</td><td>[態度①]
ノートの記述内容から「廃棄物を処理する事業について、予想や学習問題を立てられたか」を評価する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">調べる</td><td>3</td><td>○ごみステーションでの作業の様子を知る
・清掃業者の人がトラックにごみを積み込んでいる。
・ごみの収集は種類によって曜日が決まっている。
○ごみステーションに捨てられるごみの種類や捨ててよい曜日など、ごみを捨てる際のルールがあることを確認し、なぜそのようなきまりがあるのか話し合う。
・ごみによって処理のされ方が違う。
・清掃業者の方が困らないようにするため。
・違う種類のごみが混ざってしまうと処理することができない。</td><td>[思判表①]
ノートの記述や発言内容から「廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現しているか」を評価する。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>○千葉市内の可燃ごみを処理するための施設について知る。
・北清掃工場　・クリーンエネルギーセンター
・新内陸最終処分場
○清掃工場のごみ処理の様子を動画で視聴し、わかったことをノートに整理する。
・可燃ごみの処理の仕方
・清掃工場でごみが処理されていく過程
・１日に処理されるごみの量
・働いている人の数
・燃やすことで再利用できるもの　　等</td><td>[知技①]
ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、可燃ごみを処理する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。</td></tr>
</table>

調べる	5	○清掃工場について調べてわかったことを話し合う。 ・清掃トラックが工場に集まり、ごみが運ばれる。 ・中央制御室でコンピュータ操作している。 ・集められたごみの中に金属が含まれていないか確認するため、巨大な磁石が使われている。 ・ごみが焼却され、焼却される際に出る熱を使ってタービンを回すことで発電し、温水プールに使うなど再利用されている。 ・燃やされて残った灰をスラグにしたり、ブロックにして歩道に使ったりしている。 ・１日に 300 トンのごみを処理している。	[知技①] ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、燃やした後の灰の処理や燃やした時の熱の利用の仕組みなどについて理解しているか」を評価する。
	6	○リサイクルセンターのごみの処理の仕組みや役割を調べる。 ・ごみの種類によって収集車や処理する工場、処理の仕方が異なる。 ・資源ごみの処理の仕方。 ○リサイクルされるものに法律があることを知り、その意味を考える。 ・家電リサイクル法によってリサイクルし、ごみを減らす工夫をしている。 ○リサイクルセンターの人たちの思いを知る。	[知技①] ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、不燃ごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する仕組みについて理解しているか」を評価する。
	7	○千葉市の取り組みを調べる。 ・雑誌や段ボールなどの古紙は、可燃ごみと分けて回収している。 ・木の枝も分別して回収し、燃料などに再利用している。 ・ごみ袋の代金に手数料を含めたことで、ごみを出す量が減った。 ・分別して出した雑誌や古紙はリサイクルされている。 ・市では、市民がごみを減らそうとしてくれるよう、さまざまな取り組みをしている。 ○千葉市のごみを処理する人たちの思いを知る。	[知技①] ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、千葉市の取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	8	○ごみ処理についてわかったことや考えたことを話し合う。 ・ごみの分別の仕方。 ・ごみの種類によって処理の仕方が異なる。 ・環境を考えた様々な取り組みがなされている。 ・３R に基づいたごみの削減。 ○清掃業者、清掃工場、リサイクルセンター、千葉市など立場ごとの工夫や役割、思いを整理し、比較できるようにまとめる。	[知技②] ノートの記述や発言内容から「調べたことを図表や文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。

わたしたちの身の回りで出るごみは、ごみの種類によって工場に運ばれ、焼却やリサイクルなど環境に配慮した処理がされている。それぞれの立場の人たちが、ごみを減らすために工夫をして処理している。

いかす	9 (本時)	○前時のまとめを確認し、それぞれの立場でごみを減らす工夫があったことや導入に扱った問題について振り返る。 ・ごみの種類によって処理の仕方が違うので、種類ごとに回収している。 ・燃やされたごみは、最終処分場に送られたり、スラグとして再利用されたりする。 ・資源物や粗大ごみはリサイクルセンターで再利用できるように処理されている。 ・市のごみ袋は手数料の分、値段を高くすることでごみの量を減らそうとしていた。 ・千葉県の海岸における漂着物などのプラスチックごみ問題 ・食品ロスの問題 ○ごみを減らすために自分たちにできることを考え、自分の考えをジャムボードにまとめる。 ・燃やしたごみで最終処分場がすぐにいっぱいにならないように、物を大切にしたり、必要な物だけを買ったりしてごみを減らしていく。 ・分別されたごみは種類によってそれぞれ違った場所で処理されたり、再利用されたりするので、リサイクルできるように分別する。 ・近くの店で古着やトレーの回収を行っていることがわかったので、可燃ごみを減らすために買い物のときに持って行きたい。 ・市のごみ袋はごみを減らすために値段が高くなっているので、家で出るごみを減らして、ごみ１/３削減に協力する。 ○学級全体で考えを共有する。 ○単元の振り返りをする。 ・普段の生活からごみを減らすためにできることを意識していきたい。 ・たくさんのごみを減らすために努力している人たちの思いを大切にして、自分たちにできることをしていきたい。 ・もっと県や世界のごみに対する取り組みを調べていきたい。	[思判表②] ジャムボードやノートの記述から「ごみを減らすために自分たちにできることは何か考え、身の回りの生活と結び付けながら考えを表現しているか」を評価する。 [態度②] ジャムボードを通した話合いやルーブリックの記述から、「学習を通して獲得した具体的事象に照らしながら、ごみを減らすために自分たちができることを考えようとしているか」を評価する。

８　市教研社会科研究主題解明のための方策

市教研社会科研究主題

新たな社会の担い手として生きる力を育む社会科学習 ～児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせる問題解決的な学習を通して～

＜本年度主題解明のための方策＞

研究内容１	問題解決的な学習につながる教材・単元構成の工夫
研究内容２	問題解決的な学習につながる指導法の工夫
研究内容３	指導と評価の一体化

本小単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

研究内容１　問題解決的な学習につながる教材・単元構成の工夫

○　当事者意識をもって問題に向き合うための単元構成の工夫について

実態調査の結果を見ると、ごみが出ても自分の生活に影響が出ると感じる児童は少なく、ごみによる環境や衛生面への問題意識が低いことが考えられる。将来、持続可能な社会を形成していく役割を担うであろう子供たちが主体的にこれらの問題について考えていけるようにするためには、ごみ問題に対する関心と当事者意識をもたせる必要がある。そこで、本小単元を学習していく上で、「ごみ」というものがどれだけ自分の生活と関わりがあることなのかを認識させていく。単元の初めに、自分たちが出しているごみの写真を提示する。主に自分たちの教室のごみや給食で出たごみなどを見せることで、自分たちがどれだけ多くのごみを出しているかということに気付かせることができると考える。また、市や県、国や世界のごみ問題について理解する機会を設ける。自分たちの身の回りの問題がやがて市のみならず、県や国、世界まで影響を及ぼす可能性があることを意識させることで、普段の生活からごみの扱いに目を向けさせることができると考える。本時の「いかす」の学習では、導入で取り上げたことを再度提示することで、今まで調べてきたことと自分たちの身近なごみの問題と県、国、世界の問題が結びついていることを意識させることで、様々な視点から自分たちにできることを考えさせることができるはずである。また、自分の行動を変えていくために、自分の生活のどこからごみを減らしていくことができるか考えられるよう、ジャムボードの色分け機能を活用することで、考えを整理できるようにしていきたい。

研究内容３　指導と評価の一体化

○　ルーブリックを活用した指導に対する適切な評価及び、個別最適な学びの実現について

本小単元を学習していくにあたり、児童一人一人に合った学習を実現するための手立てとして、ルーブリックを活用した評価基準の明確化を実践していく。ルーブリックとは、テストでは見取ることができない学習者の課題への取り組みを評価するための基準のことである。評価基準と評価項目を明確にすることで、教師自身が児童の学習の仕方を見取れるようになるだけでなく、学習者自身もこのルーブリックを基に授業を進めていくことで、自分の学びを調整する力が身に付いていくと考える。このルーブリックは児童がいつでも評価基準を確認できるよう、掲示したり、ノートに貼ったりし、毎時間の終末に学習のどの程度基準を達成できたか振り返るようにする。課題への取り組みが基準に満たないような児童には個別に評価基準を設けたり、助言を行ったりすることで、一人一人に合った学びを実現できるようにしたい。また、児童の評価によって教師側の指導の見直しを行う必要が出てきた際には、授業方法を改善することで児童によりよい指導ができると考える。

９　本時の指導（９／９時間目）

（１）　本時の目標

○　ごみ処理について学んできたことを基に、身の回りでごみを減らすために自分たちができることを考えることができる。　【思考力、判断力、表現力等】

○　学習を通して獲得した具体的事象に照らしながら、ごみを減らすために自分たちができることを考えようとしている。　【学びに向かう力、人間性等】

（２）　本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援　◆評価	資料
5	1　ごみを減らす仕組みや取り組み、導入に扱ったごみ問題など、これまで学習してきたことを振り返る。 〈仕組み・取り組み〉 ・清掃業者の取り組み ・清掃工場の仕組み ・リサイクルセンターの仕組み ・千葉市の取り組み　等 〈問題〉 ・千葉県の海のごみ ・世界の食品ロス問題　等	○清掃工場やリサイクル工場、市など施設ごとの工夫がわかるように、学習を振り返ることのできる掲示物を掲示しておくことで、これまでの学習を想起しやすくする。 ○ごみを減らす必要性を理解したうえで考えが出せるよう、導入で扱った千葉県、国や世界などの問題に触れる。	・学習を振り返る掲示物 ・写真
5	2　学習課題を確認する。	○教師が提示せず、子供たちとの対話の中で学習問題を決める。	
	ごみを減らすために、自分たちでできることを考えよう。		
15	3　ジャムボードにグループで考えをまとめる。 〈家庭（赤）〉 ・リサイクルできるように分別して捨てる。（ごみ出しのルールを守る） ・家庭用のコンポストを設置して、生ごみを減らす。 〈学校（青）〉 ・紙も古紙としてリサイクルできるから燃えるごみに捨てないようにする。 ・生ごみも可燃ごみになるので、給食も食べられる分だけにする。 〈店（黄）〉 ・本当に必要なものだけ買う。 ・袋もごみになるので、袋をもらわず、エコバッグを持参する。	○学習を通して獲得した具体的事実に照らして自身の生活を振り返りながら考えるよう助言する。 ○自分の考えをもちやすくするために、4つの場所（家庭・学校・店・地域）でそれぞれ考えるように助言する。 ○なぜそれをするとごみが減るのか、理由まで考えに書くよう伝える。 ○中心概念に迫る上で捉えた事実認識を振り返れるように、ノートや掲示物を見ながら考えるよう助言する。 ○複数の場所でできる場合は、それぞれ記載していいことを伝える。 ○誰の考えかわかるように名前を書くよう指示する。その際、同じ考えであれば複数の名前や「全員」と記入してよいことを伝える。	・学習を振り返る掲示物

	・古着やトレーなど、リサイクルできるスーパーに持っていき、可燃ごみが出ないようにする。 ・ビニール袋やプラスチック製のものは、海を汚してしまう恐れがあるため、なるべくもらわないようにする。 〈地域（緑）〉 ・ごみ拾いをして、町や川などのごみを減らす。 〈その他（オレンジ）〉 ・使わなくなったものは人に譲る。 （フリマアプリ等） ・寄付する。	◆ごみ処理について学んできたことを基に、身の回りでごみを減らすために自分たちができることを考えることができる。 【思考力・判断力・表現力】	
10	4　それぞれのグループでまとめたものを共有する。 ・自分だけでは思いつかない考えがたくさんあった。 ・友達の考えは自分もできそうなのでやってみたい。 ・どんな場所でもできることがあるから、いつでもできるように心がけたい。	○なぜその考えがごみの削減につながるのか、理由を発表できた児童を称賛する。 ○複数の場所でできる取り組みがあることに気付かせるために、整理した場所（色）が違う同じ考えを取り上げる。	
10	5　本時の学習を自己評価する。ルーブリックを活用し、本時の評価基準をどの程度達成できたか振り返る。 ・これまで学んできたことを生かして、ごみを減らす方法とその理由を考えることができた。(A) ・ごみを減らす方法を考えることができた。(B) ・考えを書くことができなかった。(C)	○ただできたかどうかの確認をするのではなく、評価を上げるための方法やこれからの学習にどのように生かしていきたいかなど、次につながる振り返りをするよう助言する。 ◆学習を通して獲得した具体的事象に照らしながら、ごみを減らすために自分たちができることを考えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】	・ルーブリック

１０　板書計画

ごみを減らすために、自分たちでできることを考えよう。

学校

児童の考え

店

児童の考え

その他

児童の考え

家庭

児童の考え

地域

児童の考え

１１　資料

①　ワークシート（ルーブリック）

評価基準に満たない児童（C をとり続けている、C に満たない）がいた場合は、基準の表記を変えたり、内容を簡単なものに書き換えたりして、個別に評価基準を設ける。

ごみとすみよいくらし　ルーブリック　　　　組　　番　名前

	ひょうか			時	ふり返り	自己評価
	A	B	C			
つかむ	ごみがどこに運ばれ、どのようにしょ理されるのか予想を立てて、今後の学習の見通しをもてた。	ごみがどこに運ばれ、どのようにしょ理されるのか、今後の学習の見通しをもてた。	ごみがどこに運ばれ、どのようにしょ理されるのかについて、今後何を学べばよいかわからなかった。	1		
				2		
調べる	ごみがどこに運ばれ、どのようにしょ理されているのか調べ、ごみをしょ理する仕組みやごみをしょ理する人たちの工夫や思いがわかった。	ごみがどこに運ばれ、どのようにしょ理されているのか調べることができた。	ごみがどこに運ばれ、どのようにしょ理されているのか調べることができなかった。			
				4		
				5		
				6		
				7		
まとめる	調べたことを図や表、文などにまとめることで、ごみをしょ理する人たちがどのようにわたしたちの生活を支えてくれているのかがわかった。	ごみをしょ理する人たちがどのようにわたしたちの生活を支えてくれているのかがわかった。	ごみをしょ理する人たちがどのようにわたしたちの生活を支えてくれているのかがわからなかった。	8		
いかす	これまで学んできたことを生かして、ごみを減らす方法とその理由を考えることができた。	ごみを減らす方法を自分で考えることができた。	ごみを減らす方法を自分で考えることができなかった。	9		

毎時間、児童は自分の学びが評価基準のどこまで到達できたか自己評価していく。教師は授業の取り組み、ノート、ルーブリックを基に評価を行う。児童は A 評価を目指すとともに、教師との評価のずれがなくなるよう学習を振り返り、自身の学びを調整していくことを狙う。

② 参考文献

・千葉市：公式サイトトップページ（city.chiba.jp）

・千葉市：焼却ごみ削減（city.chiba.jp）

・千葉市の環境行政のあゆみ
～これまでの 100 年、これからの 100 年～

・千葉市：北清掃工場（city.chiba.jp）

・千葉市：新浜リサイクルセンター（city.chiba.jp）

・千葉市：千葉市次期最終処分場整備事業（city.chiba.jp）

・ごみ・廃棄物・リサイクル／千葉県（chiba.lg.jp）

・“チャレンジ８００”ごみ減量推進事業／長野県（nagano.lg.jp）

・京都府プラスチックごみ削減実行計画を策定しました／京都府ホームページ（pref.kyoto.jp）

・SDGs とは？ ｜ JAPAN SDGs Action Platform ｜ 外務省（mofa.go.jp）

・豊かな創造性を育む音楽づくりの指導に生かす評価の在り方
— 低学年の音楽づくりにおけるパフォーマンス課題の実践を通して —r3choken1.pdf (city.chiba.jp)

・ACHIEVEMENT HR SOLUTIONS（achievement-hrs.co.jp）
「ルーブリックとは？新しい学習評価の実態と評価表の作り方」

・ルーブリック評価型入試 ｜ 千葉明徳中学校／高等学校（chibameitoku.ac.jp）

・SDGs COMPASS （Sdgs-compass.jp）
「世界のごみ問題とは？現状・原因と今からできる対策を解説」

・千葉商科大学　MIRAI Times(cuc.ac.jp)
「リユース、リサイクル、リデュース。「３R」の優先順位と、わたしたちにできること」

・千葉市環境教育教材（小学生版）
「ちばキッズ　エコエコ大作戦　23~25」2023.3 千葉市発行 40p